

## 第 1 ～ 2 回 明日香村小委員会 各委員からの指摘事項の概要

## 歴史的風土の保存と生活環境の整備等に係る取り組みのあり方等に関すること

- ・ 景観維持、農業振興、文化財保存、観光振興等の様々な計画・活動について、全体としてのまとめや明日香村の将来ビジョンへどのようにつながっているのか、どのような体制で取り組まれているのかも見えにくく、そのネットワーク化に対する支援が不十分。創造的活用に対するマインドの高まりを背景に、これらをコーディネートする人材や場所の明確化や提供等のしくみも必要。( )
- ・ 従来型のハード中心ではなく、新しいライフスタイルを支援するという整備計画にしていくことが必要。( )
- ・ 明日香法立法に寄与された御井敬三氏が残された文章「明日香を逍遙すれば国家形成の経路が回想される」に則り、国家形成の経路が回想されるようこの明日香を形成すべき。( )

## 土地利用に関すること

- ・ 古都買上地が景観を阻害しておりネックになりつつある部分もある。買上制度自体は必要だが、地元の事情を踏まえ、維持管理について検討することが必要。( )
- ・ 移住したい人、農業をやりたい人がいるという話はよく聞くが、家売る・貸すという人は少なく、空き家斡旋等のシステムが不十分であり、また、移住希望の人が家屋を自分で修理するのは負担大。民間資本が買い取って修復するなどのしくみも考えられるのではないか。( )

## 景観に関すること

- ・ 違反建築物や公共施設デザインの不統一等は村民のやる気喪失にもつながり、明日香方式、明日香ルールといったものが必要。( )
- ・ 景観に関し、見る場所を選ぶという方策も考えられ、眺望場所、動線を意識した景観形成が必要。( )

## 歴史的・文化的資産の保存と利活用に関すること

- ・ 国、県、村等により相当計画的に発掘調査は進められているが、遺跡が複雑に重層していること等により、文化財の全体像が見えにくい。国、県、村の連携も含めた調査体制の整備や、明日香をイメージさせるような再現施設の整備を模索することが必要。( )
- ・ 遺跡の整備について、ハード面では全国でも様々な方法が採られているが、ソフト面

が弱い。むしろソフト面を相当意識し、それを前提にハードの整備を考えるというような発想が求められ、明日香ではおそらくそれは可能と考えられる。( )

- ・ 国営公園自体が集客活性化につながっていると考えている。キトラに関しては、村の活性化につながる、明日香の拠点施設のような施設も考えられており、国営公園において文化財の再現施設や明日香の歴史文化をイメージできるようなものをつくってはどうか。( )
- ・ 保存活用及び今後の展開に当たっては、飛鳥にある遺跡群は全部「古代国家形成の記憶」といったコンセプトの下に総合的・有機的に関連していることを強く意識し、展開していくことが必要。( )
- ・ 従来の埋蔵文化財に対する配慮に特化している嫌いがあるが、伝建地区と同様の集落もあり、明日香の地域を見せていく中で、建築活動を歴史的風土のどのように調和させていくのか工夫が必要。( )

#### 観光、農業等産業振興に関すること

- ・ 人を呼ぶためには情報発信、文化財の取り扱いがポイント。( )
- ・ 明日香の特長は歴史、文化であり、これを支える産業は観光と考えるので、観光面での分析が必要。( )
- ・ 農産物販売所は住民のやる気、生き甲斐にもなっており、福祉施策としても有意義。( )
- ・ 例えば直売所の売り上げが伸びており、こういった点で発想を広げていくべき。( )
- ・ 農業のみではなく、体験農業など観光との連携、特産品開発などの工夫が必要。( )
- ・ 地域が観光を十分に受け止め、主体的に取り組むまでに至っておらず、観光への取り組みが不十分。総合行政である観光は、様々な分野の取り組みがうまく関連して動き出すので、そのためのコーディネートが必要。( )
- ・ 来訪者にお金を落として貰うに当たり、地元の人々が喜ぶようなお金の流れ方が必要。( )
- ・ 周遊歩道について、国営公園の5地区や遺跡、文化財とのつながり、バリアフリー、安全管理等の面で課題があり、そのあり方を再検討することが必要。( )